

# 2023年度 事業報告書

2023年7月 1日から  
2024年6月30日まで

公益財団法人 国際文化会館

| 目次                    | 頁  |
|-----------------------|----|
| I. 公益プログラム活動.....     | 1  |
| II. 会員事業.....         | 15 |
| III. 国際文化会館の運営.....   | 20 |
| IV. 施設管理.....         | 23 |
| V. 非営利事業等からの請負事業..... | 23 |
| VI. 組織体制・ガバナンス.....   | 24 |
| VII. 寄付募集活動.....      | 27 |
| VIII. 総務関連事項.....     | 28 |

# I. 公益プログラム活動

## A. 国際関係・地域研究・地政学

### 1 地経学研究

国際経済と地政学の戦略が渾然一体となる地経学の時代のリスクは、伝統的な安全保障が対象とする国家だけでなく、グローバルに活動する企業・個人といった非国家主体にも及ぶ。地経学研究では、2022年7月に設立された地経学研究所を中核として、地経学領域でのグローバルな秩序の変化から国・企業・個人の活動に関する包括的な研究と対外発信を推進する。また国際会議やワークショップの開催等を通じた政産官学の有機的な連携を推進する。この中には地経学に関する年次フォーラム、産官学関係者が集うワークショップ、オンラインサロン等が含まれる。また対外発信としては、地経学研究レポート、地経学ブリーフィング等を定期配信し、また動画コンテンツとして上記会議等の動画配信とともに地経学インサイト、音声コンテンツとして Geoeconomic Agenda等を配信する。

当期は、地経学・経済安全保障への理解を深めるためのレポートの発信、この研究分野に強い関心・利害を有する企業や政・官・学の有識者との研究会・意見交換会の開催、人材育成、アンケートの実施等の定例の活動に加え、経済安全保障の理解を深める書籍の出版、在京大使館や海外のシンクタンク等との一層の連携、台湾へのフィールドトリップを実施した。こうした研究活動やワークショップ・研究会から得られた成果を、動画や音声、テキスト等で発信した(以下参照)。また、国際情勢や政治的なイベントに合わせたタイムリーな解説、分析等を行い、政策提言も行った。

|            |                                 |  |
|------------|---------------------------------|--|
| レポート: 134本 | 地経学ブリーフィング(日)                   | <a href="https://apinitiative.org/geoeconomic-briefing/">https://apinitiative.org/geoeconomic-briefing/</a>                          |
|            | 地経学ブリーフィング(英)                   | <a href="https://apinitiative.org/en/geoeconomic-briefing/">https://apinitiative.org/en/geoeconomic-briefing/</a><br>Japan Timesにも掲載 |
|            | エコミック・インテリジェンス・レポート             | <a href="https://apinitiative.org/iog-economic-intelligence-report/">https://apinitiative.org/iog-economic-intelligence-report/</a>  |
|            | 国際政治論壇レビュー                      | <a href="https://apinitiative.org/global-affairs-briefing/">https://apinitiative.org/global-affairs-briefing/</a><br>新潮社フォーサイトにも掲載   |
| 動画: 75本    | 地経学インサイト                        | <a href="https://apinitiative.org/iog-geoeconomic-insights/">https://apinitiative.org/iog-geoeconomic-insights/</a>                  |
|            | 地経学オンラインサロン                     | <a href="https://apinitiative.org/api-online-salon-on-geoeconomics/">https://apinitiative.org/api-online-salon-on-geoeconomics/</a>  |
| 音声: 11本    | Podcast<br>“Geoeconomic Agenda” | <a href="https://apinitiative.org/en/geoeconomic-agenda/">https://apinitiative.org/en/geoeconomic-agenda/</a>                        |

### 2 日米安全保障研究

自衛隊と米軍の退役した最高レベルの指揮官を中心に、現役の制服組も加わって安全保障政策のあり方等について協議する場を「日米軍人ステーツマン・フォーラム(MSF)」と銘打って設けている。日米の安全保障の専門家による活発な議論の成果を政策提言として取りまとめ、両国政府に提出し、その要旨を一般公開のパネルディスカッションで発表する等、その成果を広く社会で共有し国際相互理解の一層の深化を目指している。

過去においては、2014年の第一回会合から、毎年7~8月に、東京とワシントンD.C.で交互に開催し、議論の結果を政策提言として取りまとめ、両国政府に提出している。米国で開催された2019年度には、フォーラム最終日に戦略国際問題研究所(CSIS)の協力を得て、ワシントン市内の同研究所で一般公開のパネルディスカッションを実施した。2020年度からはコロナ禍によりオ

ンラインの開催としていた。

当期は、組織統合及び国際的な安全保障情勢の変革も踏まえ、新たな実施形態の検討を行った。その一環として、自衛隊元統合幕僚長等や、北東アジア協力対話(NEACD)の開催を通じた米軍高官・安全保障専門家との意見交換等を行い、日米戦略コミュニティにおける共通理解を深めるとともに、今後の実施形態の検討にあたっての参考にした。

### 3 Liberal International Order (LIO)

「自由で開かれた国際秩序(LIO)」を維持・発展させていくため、日本と欧州・インド太平洋の協力の在り方を探り、発信するプロジェクトで、研究者や有識者が分担執筆形式で報告書を作成し公表する。

当期は、プロジェクトメンバーが参加するセミナーを開催し、議論を深めたうえで、英語編著の原稿を完成させた。2023年11月にSpringer社より出版したほか、日本語版の出版準備も進めた。

### 4 コロナ東アジアの健康安全保障

東アジア諸国がどのように新型コロナウイルス感染症に対峙したのか、各国がそれぞれ被害拡大を防ぐためにとった対応を検証し、ベストプラクティスと教訓について体系的に分析する。加えて、コロナ後にも発生するであろう健康危機に対して東アジア諸国がどのように備えていこうとしているのか、各国の健康安全保障政策についても調査研究を行う。その成果は報告書として日・英の両言語で作成し、日本及び世界に発信する。一般向け論考の投稿のほか、ウェビナーを定期的実施しニュースレターやソーシャルメディアで配信する。研究内容の書籍出版も計画している。

当期は、日本及び東アジアの経験について概要を英語で取りまとめた。2023年4月にサントリー文化財団の研究会「Japan in the Global Context」で報告した内容をもとに報告書が公開された(英語及び日本語)。

(参照) <https://www.suntory.com/sfnd/jgc/>

### 5 海外Thought Leader 招聘プログラム(諸藤セミナー)

外交安保・地政学・地経学等の分野における世界的な Thought Leader(あらゆる分野における第一人者)を招聘することを目的とするプログラムである。

当期は、アジア・太平洋地域のThought Leader招聘を試みたが、日程調整ができず実施を見送り、来期の実施に向けて取材等の準備を進めた。

### 6 奨学事業

次世代リーダーの海外での研究や活動に対する奨学金や活動費等を助成する。現在実施している「松本佐俣フェロー」では、国際政治分野における次世代リーダーを育成するために、日本人の若手中堅研究者を毎年公募で募集のうえ1名選抜し、英国の独立系シンクタンクである国際問題戦略研究所(IISS)等の海外のシンクタンクにリサーチフェローとして2年間派遣している。

当期は、2022年1月から派遣した第2期松本佐俣フェローが2023年12月までIISSにてリサーチフェローとしての活動を行ったほか、第3期松本佐俣フェローの公募・選抜を行った(2024年11月よりIISSに派遣予定)。その他、峨山政策研究院を始めとする韓国の調査研究機関と、世界の平

和のための次世代の研究者を育成する「Leaders in East Asia for Peace (LEAP)」、またシンガポールのIISS-Asiaとの間で研究員の派遣・交換等を行う「高野フェロー」の準備を進めた。

## 7 調査研究事業(外交問題夕食懇談会)

本懇談会は、現代社会のさまざまな課題について、外交の視点から、よりインフォーマルな雰囲気の中で忌憚なく話し合うという趣旨により非公開とし、参加者を専門家(外交問題に造詣の深い学者・研究者、外交実務経験者、シンクタンクやNPO関係者、ジャーナリスト、ビジネスセクター等、職種や専門分野を超えて、幅広い分野の日本人及び外国人)に限定して実施している。懇談会メンバーや、ゲスト・スピーカー本人あるいは紹介者に、国際文化会館(以下「会館」と称する)主催/共催の講演会の講師やモデレーターを依頼したり、意見交換を通して今後実施する公開講演会についてのアイデアを得たりするという形で、懇談会の成果を活用するようにしている。

当期は、インド、英国、米国、韓国、カナダの在京大使を招聘し、地経学研究の観点も交え行った懇談の様子を、ウェブサイトを通じて配信した。

## 8 新渡戸国際塾(新渡戸リーダーシップ・プログラム)

新渡戸リーダーシップ・プログラムは、新渡戸国際塾の継承事業として2018年度の準備期間を経て、より多様化・複雑化する課題に対し、既存の枠にとられない視点や方法で取り組む若手リーダーを発掘する事業として2019年度に開講した。

コロナ禍が沈静化したことを受け、当期から通常プログラムを再開した。公募を行ったうえで、多様な分野から12名のフェローを選出し、下記のとおり9月から12月までの間に6回の通常講義のほかスピノフ講義及び地方の課題について学ぶためのスタディツアーを金沢市及び南砺市にて行った。講義の一部はウェブサイトで動画を公開した。また、年に一度の大同窓会である「新渡戸Day」の開催等を通じて、既存のフェローネットワークの強化を図った。

| 開催日           | 講師・テーマ等  |
|---------------|--|
| 2023/9/2      | 開講式  |
| 2023/9/2      | 【新渡戸DAY】同窓会  |
| 2023/9/15     | 通常講義①「未来を実装する」馬田隆明(東京大学FoundX ディレクター)                  |
| 2023/9/30     | 通常講義②「建築、都市、開発」青木淳(建築家)                                |
| 2023/10/13    | 通常講義③「大変革時代のリーダーシップ」<br>中満泉(国連事務次長・軍縮担当上級代表)           |
| 2023/10/21-22 | スタディツアー 金沢市・南砺市  |
| 2023/10/27    | 通常講義④「テクノロジーと地政学リスク」<br>江藤名保子(学習院大学教授)・塩野誠(地経学研究所経営主幹) |
| 2023/11/7     | スピノフ講義①吉田浩一郎(クラウドワークスCEO)                              |

|            |  |
|------------|--|
| 2023/11/17 | 通常講義⑤「文明論、イノベーション」富山和彦 (IGPI 会長)                         |
| 2023/11/22 | スピノフ講義②乗竹亮治 (日本医療政策機構CEO)                                |
| 2023/11/24 | スピノフ講義③鈴木一人 (地経学研究所所長)                                   |
| 2023/11/24 | 通常講義⑥「関係価値を形成するキュレーションの力。共感を生む、アートの力」長谷川祐子 (金沢21世紀美術館館長) |
| 2023/12/2  | 修了式  |

## 9 日米国際金融シンポジウム

日米国際金融シンポジウムは、ハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム (PIFS) との共催で実施している。本シンポジウムは毎年、日米交互に開催され、両国の政府高官や政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者等100名以上が参加し、2日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

当期は第26回シンポジウムを11月16～18日に軽井沢で実施した。日米から114名が参加し、以下の課題について討議を行った。

- 2023年春の銀行危機
- 日米における民間市場と公的市場の役割
- デジタル資産の未来: 公的部門と私的部門
- 日米における デフレ・インフレとの戦い: 国によって異なる政策の結果

## B. 社会システム・ガバナンス・イノベーション

### 1 シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム (SVJP)

日本と米国シリコンバレー地域の各分野のリーダーが地域交流し、社会システムにおけるイノベーションを促進するためのプラットフォーム形成を、米国の非営利団体、米日カウンシル (USJC) と共同で行っている。シンポジウムや勉強会に加え、年一度米国サンフランシスコにて、日本とシリコンバレーを代表する起業家、経営者、投資家、アカデミア、政府関係者等が結集する国際会議を開催している。

当期は、急速に進化する生成AIを中心に、その適用分野 (教育、環境、サプライチェーン等) と課題、サイバーセキュリティへの影響、AIチップの動向、企業におけるAI活用のベストプラクティス等について、専門家と経営者が最新情報を共有し、意見を交換する機会を定期的に設けた。特に2023年9月にシリコンバレーで開催された年次総会では、企業の枠を超えたAI専門家が集まり、社会全体の視点から生成AIがもたらす機会と経営者に求められる対応について熱心に議論が行われた。これらの会合での議論の要点や得られた知見を報告書として発表した。

また、2023年10月から11月にかけて、グローバル展開を目指す起業家と起業を目指す若者を対象にしたカンファレンスを開催し、米国で成功を収めた日本人若手起業家が自身の経験や成功の秘訣を共有した。

## 2 アジア・パシフィック・イニシアティブ・フォーラム (APIF)

アジアの未来を切り開く起業家・イノベーションリーダー・チェンジメーカー（社会を変革するリーダー）が結集し、グローバルな各界のリーダーの意見も踏まえながら、20～30年後のアジアの未来像について議論し、アジア太平洋地域の新たなイノベーション・エコシステムを作り出すことを目的とする。議論の成果をウェブサイトで公開することで、アジアの変革の最先端の動向について、幅広く社会に発信する。

当期は、強い信頼関係で結びついたアジア発の新たなコミュニティ形成に向けて、アジア各国の起業家、投資家、大手財閥の経営者、アーティスト等、24名を日本に招聘し、総会を開催した。三日間に亘り、各国が直面する課題や必要な対策、将来世代が希望を持てるアジアの未来像等について、活発な議論を行った。また、日本の官・民・学とのセッションも設け、将来的な協働につながる機会を創出したほか、議論の成果をウェブサイトで公開した。次期からはプログラムの名称を「アジア・リーダーズ・フェロウシップ」とする予定である。

## 3 政策起業家プラットフォーム (PEP)

PEP(政策起業家プラットフォーム)は、より良い日本を創るため「政策起業家」の育成、協働、提携、研修、認知を目的として場を提供し、政策起業家がインパクトのある政策実現を主導できる環境づくりを目指すためのプラットフォームである。年1回の公開シンポジウム(PEPサミット)、原則1～2カ月に1回ほどの政策にまつわる議論(PEP Roundtable)、若手政治家・若手起業家の意見交換会(PEP Biz)、学生向けの政策起業教育(PEP for Youth)等を実施している。

当期は、2024年1月に公開シンポジウム「PEPサミット2024」を開催したほか、Climate Techにまつわる政策について議論する「PEP Roundtable for Climate Tech」、小泉進次郎衆議院議員を招聘した若手起業家との意見交換会「PEP Biz」を開催した。また、次世代の政治・社会的リーダーの育成に向け、地方自治体の首長がリーダーシップと経験を共有する意見交換会を開始したほか、学生を対象とした PEP for Youth の活動も開始し、若手政策起業家の育成にも取り組んだ。

## 4 テクノロジーの社会実装

第1ステージで調査研究した「『社会実装』とは何か？ なぜ日本ではテクノロジーの社会実装に苦勞しているのか？」と、先端技術の社会実装を進めていくためのフレームワーク(インパクト・リスクと倫理・ガバナンス・センスメイキング)についての研究成果を踏まえ、当プロジェクトでは第2ステージとして、あらゆるテクノロジーの社会実装の課題が集約されているスマートシティに関する執筆・検証を進めている。

当期は、これまでの研究プロジェクトの成果を書籍あるいは報告書として出版するための準備を行った。

## 5 エネルギー・グリーン政策統合研究

世界のエネルギー及びグリーン政策において新たなルール作りやそれに基づく秩序が形成されていく中、日本が乗り遅れることなくルール・メーカーとして主導権をとり、脱炭素とエネルギー

の安定供給を両立させ、産業の国際競争力を維持・向上させる方策を探求するための研究プロジェクトである。

当期は、エネルギー関連分野の実務家や政府中枢の政策決定者が集い、中東情勢やAIを使ったサービスの増加を背景とした電力需要の拡大により大きく変動するグリーン・エネルギー分野の現状理解を確認するための検討セッションを開催した。

## 6 アイハウス・レクチャー

### 【Asia Pacific Young Leaders Program (APYLP)】

アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年数回のジョイント・セッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

当期は、新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン配信の普及に伴い、引き続きオンライン上での開催を行った。ラモン・マグサイサイ賞財団の協力、一般財団法人 MRA ハウスの助成を得て、「インド太平洋リーダーによるウェビナーシリーズ」として2回のウェビナーを開催した。

| 配信日       | 講師・テーマ等  |
|-----------|--|
| 2024/2/29 | 「ハラルとは？：ハラル食を通して現代イスラムを考える」<br>アヤン・ウトリツツァ・ヤーキン(ルーヴァン・カトリック大学客員講師)        |
| 2024/3/29 | 「和平交渉を担う女性たち：ミンダナオ紛争からの学び」<br>ミリアム・コロネル・フェレール<br>(平和活動家、元フィリピン政府和平交渉団議長) |

### 【Hasso会】

戦後70年以上経て未だ文化・歴史的背景の違いによる課題が山積している中、2019年に発足した、立場や世代、性別、国籍、宗教等あらゆる垣根を越えた若手コミュニティである。多様な視点から密度の濃い意見交換を行うことで、新時代の平和と共存に貢献するリーダーたちが協働する機会を創出する事を目指す。行政・政策、学術、ビジネス、NPO・社会起業、テクノロジー、宗教・哲学、アート・デザイン、文化の8分野における才気あるリーダーたちが集まり、思索し、語り合い、創造するための機会と場を提供している。月1回、現代社会のさまざまな課題に対して当事者意識をもって取り組んでいる「Agent of Change」を囲む朝食会を開催するほか、国内外の視察を兼ねた交流ツアーも実施している。

当期は、以下の11回の定例会合を実施した。当初計画していた交流ツアーは、次期に延期して実施予定である。

| 開催日       | 講師・テーマ等   | 参加者数 |
|-----------|---|------|
| 2023/7/20 | 「アーティストの表現の場となる都市、TOKYO NODEの全貌について」<br>杉山央(アート・テクノロジー領域のプロデューサー) | 15名  |

|            |  |     |
|------------|--|-----|
| 2023/8/17  | 「宇宙に関するルールメイキングについて」<br>中村仁威(外務省欧州局参事官、軍縮不拡散・科学部参事官)                                   | 15名 |
| 2023/9/14  | 「医療業界での新たな取り組みと気づき」<br>五十嵐北斗(株式会社HOKUTO代表取締役)  | 11名 |
| 2023/10/19 | 「ビジネスと人権」<br>土井香苗(国際人権NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」日本代表、<br>ニューヨーク州弁護士)                          | 9名  |
| 2023/12/19 | 「Enjoy Baseballとは何か～『勝ち』と『価値』の両立へ～」<br>森林貴彦(慶應義塾幼稚舎教諭、慶應義塾高校野球部監督)                     | 22名 |
| 2024/1/18  | 「新時代の日本初クロスボーダービジネスを考える」<br>秋山広宣(株式会社INFORICH代表取締役社長兼執行役員CEO)                          | 11名 |
| 2024/2/15  | 「海苔業界の課題とこれから」<br>山本貴大(株式会社山本海苔店 代表取締役社長)  | 19名 |
| 2024/3/21  | 「Archaeology of the Future」<br>田根剛(建築家)  | 14名 |
| 2024/4/9   | 「現代アートコレクターとしての歩みと気づき～UESHIMA MUSEUM<br>開館にあたって～」<br>植島幹九郎(UESHIMA COLLECTIONオーナー、創設者) | 16名 |
| 2024/5/21  | 「日本の宇宙活動の軌跡と展望:ペンシルロケットから気候変動観測、<br>宇宙産業の発展まで」<br>杉田尚子(宇宙航空研究開発機構 地球観測研究センター 参事)       | 16名 |
| 2024/6/11  | 「神戸をさらなる『文化の港』に～Artist in Residence KOBE(AiRK)の<br>活動～」<br>森山未来(ダンサー、俳優)               | 17名 |

### 【カルチュラル・ロビー】

社会における議論を深め、知的対話、文化交流を促進することを目的とするアイハウス・レクチャーの新たな取り組みとして、当期は、アートやデザインにかかわるクリエイターと、アートとは全く異なる専門領域の専門家との間の、異種間格闘技ともいえるクロストークを開始した。具体的には、霊長類学者にしてゴリラ研究の第一人者である総合地球環境学研究所所長の山極壽一博士と、国際的に活躍するダンサーで俳優の森山未来氏を招き、芸術の起源、コミュニケーションの起源としての踊りとその役割・副次的効果を題材に、対話・交流を推進した。

## 7 若手のための交流会

次代の会館の活動の主体となる、20～40代の若手のビジネス・パーソン、NGOスタッフ、学生、研究者等で、文化交流・知的交流に関心のある方を中心とした交流会(特定のテーマの勉強会や読書会等)を実施する。対象年齢層は設定するものの、職業や分野、国籍等を問わず広く一般に開き、彼らが会館に足を運ぶ機会を増やし、交流を深め、そのネットワークを仕事や仕事

外の社会活動等に活かすことにつなげる等、次世代の国際交流を担う若手の育成を目的とする。

当期は、松本佐保フェロー、新渡戸リーダーシップ・プログラムやAPYLPなど同世代を対象とした他のプログラムとの統廃合も含めて、より良い実施方法を検討するため休止した。

## C. 文明論・哲学

### 1 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップ等に講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設ける。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

当期は、他事業のフェロー対象とのすみ分けや事業方向性を見直すために休止した。

### 2 70周年記念公開プログラムシリーズ

会館は、戦後、米ソ対立によりアジアの冷戦が深刻化する中で設立され、その後の日本と国際社会の平和と繁栄に大きく貢献してきた。設立70周年を迎える2022年の節目に、70年前の大胆な取り組みに学び、今後長きにわたり日本と国際社会の平和と厚生の上昇に寄与していくことを目指す。

当期は、1980年～2000年代の間に運営していたアジアの若手リーダーシップ・プログラムや2022年度に会館とのつながりを再構築できたビジネスフェローのコミュニティ醸成のための同窓生のデータベースの更新や下記インタビューシリーズをホームページに掲載した。

インタビューシリーズ「Hello! from IHJ Fellowship Alumni」

| 配信日        | 講師・テーマ等   |
|------------|---|
| 2023/12/22 | 「言葉とアイデアで女性と人類を前進させる」<br>アリーナ・ラストム(マレーシア)<br>作家、教師、詩人<br>(アジア・パシフィック・ユース・フォーラム1996年参加、1997年参加およびラポルトウール、1999年ラポルトウール) |
| 2024/6/25  | 「学ぶことを止めず、常に希望を持ち、平和を信じる」<br>ヌオン・ソ・セロ(カンボジア)<br>(アジア・パシフィック・ユース・フォーラム沖縄 1995年参加)                                      |

### 3 アイハウス・レクチャー

【世界的に活躍する会員を講師に招いたシリーズ】

今日、国際社会はナショナリズムや排外主義の台頭、グローバル化への反動、テクノロジーの急激な進歩等、既成の枠組みや従来の考え方が通用しない時代へと突入している。また、多くの国が「発展」や「成長」、「多様性」に力を注いできた一方で、さまざまな面で生じた分断や格差が際限なく広がりを見せている。そのような中、人々の対話と交流を通して共通の課題の解決に向けて取り組むため、2019年度より各分野で世界的に活躍する会員の方を特別講師に迎え、年4～5回の講演会及び懇談会を実施している。

当期は6回の講演会と1回の演奏会を開催した。幅広い分野で活躍されている会員を中心とした参加者が、講演会で問題提起された課題等について理解を深め、その課題について社会に貢献していくための機会の創出を図った。また、演奏会を通し、文化を通じた相互理解を実際に体感いただく機会を提供した。

| 開催日        | 講師・テーマ等   | 参加者数 |
|------------|---|------|
| 2023/7/18  | 「— 襖絵からウクライナまで —」<br>細川護熙(第79代内閣総理大臣)                   | 87名  |
| 2023/9/8   | 「AI時代の教育の未来について」<br>安西祐一郎<br>(公益財団法人東京財団政策研究所所長、元慶應義塾長) | 65名  |
| 2023/10/17 | 「ヴァイオリン・コンサート:ウィーン音楽の夜会」<br>川島成道(ヴァイオリン)／佐藤勝重(ピアノ)      | 59名  |
| 2023/11/7  | 「国際文化会館と日本庭園」<br>重森千青(作庭家)                              | 41名  |
| 2023/12/8  | 「現代のお寺の役割」<br>安永雄彦(本願寺執行長)                              | 30名  |
| 2024/1/16  | 「2024年—日本と世界の経済見通し」<br>柳川 範之(東京大学大学院経済学研究科教授)           | 57名  |
| 2024/5/27  | 「日本の美術館に魅せられて」<br>ソフィー・リチャード(美術史家、作家)                   | 39名  |

#### 4 日印交流プログラム

日印平和条約締結から60年を迎えた2012年、日印両国が主軸となり、アジア・太平洋の安定と平和を築くための対話の「場」を創出するため、会館と独立行政法人国際交流基金が共同で立ち上げた人物招聘事業である。2017年度からは、シャハニ・アソシエイツ株式会社との共催事業として実施している。

本プログラムでは、社会のさまざまな問題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治・経済・文化・学術・科学等幅広い分野から、年間1～2名を1週間程度日本に招聘する。フェローは、講演会や関連機関の訪問等を通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

当期は、インドからの招聘のみならず、日本からインドへの有識者派遣も含め、今後の事業の方向性について関係者と協議を行った。

## D. アート・デザイン

### 1 芸術家交換関連事業(日米芸術家交換プログラム、IHJアーティスト・フォーラム)

米国の芸術家5名(5組)が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムである。日米友好基金(Japan-United States Friendship Commission)が主催し、会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体等への紹介、情報の提供や通訳等、フェローの活動全般をサポートしている。

当期は、新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限により2021年度中に来日できなかった以下のフェローが来日した。またフェローの発表の機会として以下のアーティスト・フォーラムを実施した。

#### 2021年度フェロー

マーク・ドクライブロー(音楽家)

ダコタ・ギアハート(美術家)

ロバート・ハッチソン(建築家)

リー・ソマーズ(セラミック・アーティスト)

#### 【IHJアーティスト・フォーラム】

| 開催日       | 講師・テーマ等   | 参加者数                |
|-----------|---|---------------------|
| 2023/7/14 | アーティスト・トーク<br>「Memory Landscapes -記憶の景色」<br>ロバート・ハッチソン              | 58名<br>動画再生<br>227回 |
| 2023/8/8  | ミニライブ & トーク<br>「In My Father's Footsteps -父の足跡」<br>マーク・ドクライブロー      | 43名<br>動画再生<br>151回 |
| 2023/8/17 | アーティスト・トーク<br>「Telephone Game -陶芸文化の伝言ゲーム」<br>リー・ソマーズ               | 29名<br>動画再生<br>125回 |
| 2023/12/6 | アニメーション上映 & アーティスト・トーク<br>「Life Touching Life～触れ合う生命～」<br>ダコタ・ギアハート | 47名<br>動画再生<br>172回 |

### 2 アイハウス・レクチャー

#### 【建築プログラム-Architalk】

日本建築界の三人の巨匠(前川國男、坂倉準三、吉村順三)によって設計された会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や世界の建築関係者が会員として多数在籍しており、また国内外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークを活かし、会館の建物の再生が行われてから10年目にあたる2016年度より、内外で活躍する建築家を招き、現代世界について考えるためのプログラムを開催してきた。

当期は、シアスター・ゲイツ氏を招聘し、下記のとおり講演会を会館及び京都にて開催した。それぞれの講演動画と音声は一般に公開している。また、民藝作家である濱田友緒氏が益子でかまえる窯を訪問し、交流も促進した。

| 開催日       | 講師・テーマ等                                  |
|-----------|--|
| 2024/2/14 | 「シアスター・ゲイツ:ブラックスペースをつくる」講演会<br>シアスター・ゲイツ |
| 2024/2/17 | 「Afro-Mingei」講演会 @京都<br>シアスター・ゲイツ        |

#### 【庭園ツアー】

会館を語るうえで欠かせない、日本モダニズム建築の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の共同設計による建物と、わが国屈指の京都の名造園家「植治(うえじ)」こと7代目小川治兵衛の作庭による庭園を訪れた人々に案内するプログラムである。建物や土地、庭の歴史から、会館の設立に関わった方々の信念を紹介することで、国際社会における会館の意義、ひいては平和な未来について考える契機として2019年度より実施している。

当期は、会館庭園の監修を手掛ける作庭家の重森千青氏が、四季折々の庭園の魅力を伝える動画シリーズを撮影・編集のうえ、順次公開している(春編及び夏編は公開済)。

| 公開日    | 動画テーマ・タイトル                          | 視聴回数<br>(2024年7月1日現在) |
|--------|-------------------------------------|-----------------------|
| 2023/5 | 作庭家・重森千青氏と歩く国際文化会館の庭園～春編～<br>「石積み編」 | 502回                  |
| 2023/6 | 「各階層編」                              | 608回                  |
| 2023/7 | 「樹木編」                               | 1322回                 |
| 2023/8 | 「室内からの眺望編」                          | 469回                  |
| 2024/1 | 作庭家・重森千青氏と歩く国際文化会館の庭園～夏編～<br>「各階層編」 | 212回                  |
| 2024/1 | 「お気に入りの眺望編」                         | 217回                  |
| 2024/2 | 「水への眼差し編」                           | 616回                  |

### 3 70周年記念公開プログラムシリーズ

会館の法人設立70周年の2022年度から建物開館70周年にあたる2025年度までの4年間で会館が担ってきた社会的役割を再検証し、今後長きにわたり日本と国際社会の平和と厚生の上昇に寄与していくことを目指して製作する、一連の公開プログラムシリーズである。

当期は、庭に焦点をあてた短編ドキュメンタリー『The Place of Harmony』を製作し、会館ウェブサイト及びYouTubeで配信した。名勝に指定されている庭園の保存活動に携わる人々や、庭が建物との調和の中で果たしている役割を探求した。

### 4 助成事業

本事業は、社会的に意義の大きい文化交流事業に対して助成を行う。  
2022年度に「アジールフロタン復活事業」が終了し、当期は実施しなかった。

## E. 情報発信

### 1 広報事業

会館の諸活動を発信することで、会館の認知度向上を目指すと同時に、活動の成果を広く社会に還元していく事業である。毎月のメールマガジン及び毎週のニュースレター等で、会館で開催するプログラムの告知や、講演レポート(テキスト・動画)の公開、図書室等施設からの各種案内を、会員・一般向けに配信している。また、多様な世界との知的対話を進めるべく、外国語での広報活動にも力を入れる。

当期は、メールマガジンやウェブサイトのほか、YouTube、Facebook、X(旧Twitter)、Instagramやポッドキャスト等のソーシャルメディアを含むデジタルメディアを効果的に活用しながら、拡散力ある情報発信強化をめざした。また、2023年12月に『各国防衛産業の比較研究』を刊行したほか、過去に出版した成果物の外国語版の作成・広報として『検証 安倍政権』(2022年)の英語版を出版した。

### 2 出版事業(アイハウス・プレス)

2006年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。

当期は、これまでに刊行された書籍の販売を継続するとともに、電子化の可能性について引き続き検討した。

## F. 図書室

### 1 図書関連事業

会館図書室は、主に日本についての国際的理解を促進する学術交流という目的を達成するために設立され、資料・情報の提供、機関や人物の紹介、資料の展示、リーディングセッションの開催等、利用者が交流するための場を提供している。

図書室サービス面での実績を以下の表にまとめている。

【開室日数、来館者数等(2024年6月30日現在)】

|        | 2023年度   |
|--------|----------|
| 蔵書     |          |
| 図書     | 26,707 冊 |
| 雑誌タイトル | 358 種    |

|          |        |          |
|----------|--------|----------|
| 受入図書     |        | 122 冊    |
| 購入       | 50     |          |
| 寄贈       | 72     |          |
| 受入雑誌     |        | 1,531 冊  |
| 除籍図書     |        | 802 冊    |
| 開室日数     |        | 288 日    |
| 来館者      |        | 15,576 人 |
| 日本人      | 10,790 |          |
| 外国人      | 4,786  |          |
| 貸出       |        | 420 冊    |
| 図書館間貸出   |        | 28 件     |
| 依頼       | 9      |          |
| 受付       | 19     |          |
| レファレンス   |        | 139 件    |
| 来館       | 282    |          |
| 電話       | 31     |          |
| 手紙・ファックス | 1      |          |
| 電子メール    | 65     |          |
| パソコン利用者  |        | 106 人    |
| 図書会員     |        | 81 人     |
| 入会       | 0      |          |
| 退会       | 14     |          |

### 【3館共同による資料の小展示】

本小展示は従来、日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室と共催で行ってきたものだが、当期は日仏会館との2館共同で行った。以下のテーマで展示を行い、それぞれの図書室が所蔵する英語、フランス語の資料を展示した。

| 開催日 | タイトル | 展示資料 |
|-----|------|------|
|-----|------|------|

|                      |                        |  |
|----------------------|------------------------|--|
| 10月2日<br>～<br>10月31日 | 生誕100年 遠藤周作            | 遠藤周作の作品の翻訳書や研究書(28冊)<br>(会館)<br>遠藤周作の作品の翻訳書や研究書<br>(日仏会館)        |
| 3月1日<br>～<br>3月30日   | 小津安二郎:<br>生誕120年 没後60年 | 小津安二郎に関する英語資料(13冊)<br>(会館)<br>英語、フランス語で書かれた小津安二郎の研究書など<br>(日仏会館) |

### 【会館関係資料の解説付き展示】

会館の歴史や建築・庭園に関する資料、ならびに会館に所縁のある人物に関する資料を解説付きで展示する。併せてウェブサイトや会館のSNS等でも広報を行い、図書室の利用者だけでなく、広く関心のある人々に、会館についての知識を深めてもらう一助となることをめざす。当期は以下のテーマで展示を実施した。

| 開催日                 | タイトル                      | 展示資料   |
|---------------------|---------------------------|--|
| 2月13日<br>～<br>5月31日 | -                         | Women in Japanese Studies: Memoirs from a Trailblazing Generation / edited by Alisa Freedman |
| 4月22日<br>～<br>6月4日  | ロバート・オープンハイマー博士<br>関連資料展示 | オープンハイマー氏著作、来日時講演を収録した会館会報、新聞記事、滞在スケジュール等計17点  |

### 【港区専門図書館ネットワーク事業への参加】

港区立図書館と港区にある専門図書館の連携を強化し、有機的な相互活用を目指すため、港区専門図書館等連絡会に参加し、各館担当者との交流を図った。また、同連絡会で企画された、各館が所蔵する社史一覧の作成に協力した。

## 2 アーカイブ基盤整備事業

会館が保管する写真、動画、音声、文書等は、戦後の文化交流史を語る貴重な一次資料である。これらの活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、2017～2019年度の3か年にわたってアーカイブ基盤整備事業を実施した。2020年度以降は有識者によるアーカイブ資料の評価や、他機関との連携についての検討を行っている。

当期は、アーカイブ基盤整備事業でデジタル化されなかった資料のデジタル化を2024年度から進めるための準備として、デジタル化すべき資料の取捨選択と優先順位の決定のため、専門業者とコンサルティング契約を結び、2名の有識者にアドバイザー委嘱を依頼した。

## Ⅱ. 会員事業

### A. 個人会員

2023年7月から2024年6月までの新規入会者数は242名(日本人195名、日本人以外47名)で、昨年同時期に比べ32名増加(日本人28名増、日本人以外4名増)した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は213名(日本人149名、日本人以外64名)で、昨年同期比130名増加(日本人97名増、日本人以外33名増)した。これにより全体として29名の会員数の増加(日本人46名増、日本人以外17名減)となり、2024年6月30日現在、日本人会員2,620名と日本人以外49カ国(地域)の会員822名の合計は3,442名となった。

|      | (単位:名)    |          |    |            |
|------|-----------|----------|----|------------|
|      | 日本人       | 日本人以外    | 小計 | 合計         |
| 新入会員 | 195 (81%) | 47 (19%) |    | 242 (100%) |
| 退会   | 149 (70%) | 64 (30%) |    | 213 (100%) |
| 国籍変更 | 0         | 0        |    | 0          |
| 増減   | +46       | -17      |    | +29        |

### B. 法人会員

2023年7月から2024年6月までの新規入会は0法人、退会は15法人、減口が1法人で、昨年度同時期に比べ15法人減となった。これにより法人会員数は2024年6月30日現在、昨年度同時期に比べ17口減となり、合計171法人196口となった。

|    |    | 法人数 | 口数  | 昨年度比 |        |
|----|----|-----|-----|------|--------|
| 4口 | 法人 | 1   | 4   |      | ±0     |
| 3口 | 〃  | 4   | 12  |      | ±0     |
| 2口 | 〃  | 14  | 28  | -4   | (-4口)  |
| 1口 | 〃  | 152 | 152 | -13  | (-13口) |
| 計  |    | 171 | 196 | -17  | (-17口) |

### C. 図書会員

2023年7月から2024年6月の新規入会者は0名、退会者は14名で、2024年6月30日現在、図書会員は11カ国81名となった。

## D. 総収入

2023年7月から2024年6月の図書会費を含む会費収入は、71,332,971円で、昨年度比10,175,362円減少し、入会時寄付金収入は37,000,000円で、昨年度比2,700,000円増加した。法人会費収入は32,510,000円で、昨年度比2,096,000円減少した。

(単位:円)

|        | 2023年7月～<br>2024年6月実績 | 予算                 | 2022年7月～<br>2023年6月実績 |
|--------|-----------------------|--------------------|-----------------------|
| 個人会員費  | 71,332,971            | 75,000,000         | 81,508,333            |
| 入会時寄付金 | 37,000,000            | 20,000,000         | 34,300,000            |
| 法人会員費  | 32,510,000            | 30,000,000         | 34,606,000            |
| 合計     | <u>140,842,971</u>    | <u>125,000,000</u> | <u>150,414,333</u>    |

## 個人会員国籍別統計

(2024年6月30日現在)

| 国籍／地域    | 計                  |             | 退会<br>(－) | 計                  |       |
|----------|--------------------|-------------|-----------|--------------------|-------|
|          | 2023年<br>2023/6/30 | 新入会員<br>(＋) |           | 2024年<br>2024/6/30 |       |
| オーストラリア  | 32                 | 2           | 6         |                    | 28    |
| オーストリア   | 4                  | 0           | 1         |                    | 3     |
| バングラデシュ  | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| ベルギー     | 4                  | 0           | 0         |                    | 4     |
| ブラジル     | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| カナダ      | 38                 | 1           | 6         |                    | 33    |
| 中華人民共和国  | 6                  | 2           | 1         |                    | 7     |
| チェコ      | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| エクアドル    | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| エルサルバドル  | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| フィンランド   | 2                  | 0           | 0         |                    | 2     |
| フランス     | 15                 | 1           | 0         |                    | 16    |
| ドイツ      | 24                 | 0           | 1         |                    | 23    |
| ギリシャ     | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| ハイチ      | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| 香港       | 6                  | 2           | 0         |                    | 8     |
| ハンガリー    | 2                  | 0           | 0         |                    | 2     |
| インド      | 10                 | 1           | 0         |                    | 11    |
| インドネシア   | 4                  | 1           | 0         |                    | 5     |
| アイルランド   | 5                  | 0           | 1         |                    | 4     |
| イタリア     | 3                  | 1           | 0         |                    | 4     |
| 日本       | 2,574              | 195         | 149       |                    | 2,620 |
| ヨルダン     | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| ケニア      | 1                  | 0           | 1         |                    | 0     |
| 韓国       | 23                 | 2           | 1         |                    | 24    |
| マレーシア    | 3                  | 0           | 0         |                    | 3     |
| マルタ      | 0                  | 1           | 0         |                    | 1     |
| メキシコ     | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| モンゴル     | 0                  | 1           | 0         |                    | 1     |
| ネパール     | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| オランダ     | 7                  | 0           | 1         |                    | 6     |
| ニュージーランド | 2                  | 0           | 0         |                    | 2     |
| ノルウェイ    | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| パナマ      | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| フィリピン    | 2                  | 0           | 0         |                    | 2     |
| ポルトガル    | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |
| ロシア      | 1                  | 0           | 0         |                    | 1     |

|         |       |     |     |       |
|---------|-------|-----|-----|-------|
| サウジアラビア | 1     | 0   | 1   | 0     |
| シンガポール  | 8     | 0   | 1   | 7     |
| 南アフリカ   | 1     | 0   | 0   | 1     |
| スリランカ   | 4     | 0   | 1   | 3     |
| スウェーデン  | 6     | 2   | 1   | 7     |
| スイス     | 5     | 0   | 0   | 5     |
| シリア     | 1     | 0   | 0   | 1     |
| 台湾      | 7     | 1   | 0   | 8     |
| タイ      | 10    | 0   | 0   | 10    |
| トルコ     | 3     | 0   | 1   | 2     |
| イギリス    | 53    | 9   | 1   | 61    |
| アメリカ    | 532   | 20  | 39  | 513   |
| ベトナム    | 1     | 0   | 0   | 1     |
| 日本人     | 2,574 | 195 | 149 | 2,620 |
| 日本人以外   | 839   | 47  | 64  | 822   |
| 合計      | 3,413 | 242 | 213 | 3,442 |

法人会員分布  
(2024年6月30日現在)

| 県／国 |      | 4口 | 3口 | 2口 | 1口  | 法人数 | 口数  |
|-----|------|----|----|----|-----|-----|-----|
|     |      |    |    |    |     |     |     |
|     | 千葉   | 0  | 0  | 1  | 1   | 2   | 3   |
|     | 東京   | 1  | 3  | 13 | 132 | 149 | 171 |
|     | 神奈川  | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | 富山   | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | 愛知   | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | 滋賀   | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | 大阪   | 0  | 1  | 0  | 1   | 2   | 4   |
|     | 岡山   | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | 沖縄   | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     |      |    |    |    |     |     |     |
|     | ドイツ  | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | オランダ | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | イギリス | 0  | 0  | 0  | 1   | 1   | 1   |
|     | アメリカ | 0  | 0  | 0  | 9   | 9   | 9   |
|     |      |    |    |    |     |     |     |
| 合計  |      |    |    |    |     |     |     |
|     | 法人数  | 1  | 4  | 14 | 152 | 171 |     |
|     | 口数   | 4  | 12 | 28 | 152 |     | 196 |

### Ⅲ. 国際文化会館の運営

当期は、研究個室(宿泊施設／全25室)において、7,565名の宿泊客を迎えた。

このうち、外国人の利用が68%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化人、知識人の方々が集う施設としての特色を表している。

別館に位置する会合施設(講堂／セミナー室)の利用者は21,145名、本館の会合施設(岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム)は、28,670名に利用された。

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、57,572名に利用された。また、主食堂のレストラン『SAKURA』は、16,110名の利用があった。

#### 【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』 キャンペーン・イベント】

- ・クリスマスディナー(2023年12月22日～12月24日)
- ・お正月御膳(2024年1月1日～1月3日)
- ・桜御膳(2024年3月16日～3月31日)

#### 【レストラン『SAKURA』 キャンペーン・イベント】

- ・クリスマススペシャルコース(2023年12月22日～12月24日)
- ・新春フレンチコース(2024年1月1日～1月3日)
- ・桜コース(2024年3月16日～3月31日)

以上の結果、別館を含む会合施設及び料飲施設の総利用客数は、139,547名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- ・観桜会 Sakura Party(2024年3月29日、参加者112名)

## サービス活動実績

### 研究個室

自 2023年 7月 1日  
至 2024年 6月 30日

|                 | 2022年7～6月   | 2023年7～6月   | 増減         | 前年比 (%) |
|-----------------|-------------|-------------|------------|---------|
| 宿泊者数<br>(名)     | 9,679       | 7,565       | -2,114     | 78.2%   |
| 一日平均宿泊者数<br>(名) | 26.5        | 20.8        | -5.7       | 78.5%   |
| 外国人比率<br>(%)    | 66.7        | 68.0        | 1.3        | 101.9%  |
| 稼働率<br>(%)      | 67.0        | 63.5        | -3.5       | 94.8%   |
| 収入額<br>(円)      | 122,189,945 | 119,029,532 | -3,160,413 | 97.4%   |
| 一日平均収入額<br>(円)  | 334,767     | 327,905     | -6,862     | 98.0%   |

\* 年度内3日間休館(8/2、8/3、8/4)

## 会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2023年 7月 1日

至 2024年 6月 30日

|       |     | 2022年7～6月    | 2023年7～6月    | 増減          | 前年比    |
|-------|-----|--------------|--------------|-------------|--------|
| セミナー室 | 収入額 | ¥55,917,555  | ¥62,051,605  | ¥6,134,050  | 111.0% |
|       | 客数  | 19,052       | 21,145       | 2,093       | 111.0% |
|       | 客単価 | ¥2,935       | ¥2,935       | ¥0          | 100.0% |
| 会議室   | 収入額 | ¥267,565,058 | ¥325,270,954 | ¥57,705,896 | 121.6% |
|       | 客数  | 25,159       | 28,670       | 3,511       | 114.0% |
|       | 客単価 | ¥10,635      | ¥11,345      | ¥710        | 106.7% |
| 婚礼    | 収入額 | ¥272,958,026 | ¥274,467,869 | ¥1,509,843  | 100.6% |
|       | 客数  | 8,703        | 8,485        | -218        | 97.5%  |
|       | 客単価 | ¥31,364      | ¥32,347      | ¥983        | 103.1% |
| レストラン | 収入額 | ¥128,264,499 | ¥139,715,601 | ¥11,451,102 | 108.9% |
|       | 客数  | 16,292       | 16,110       | -182        | 98.9%  |
|       | 客単価 | ¥7,873       | ¥8,673       | ¥800        | 110.2% |
| ラウンジ  | 収入額 | ¥130,766,833 | ¥135,833,779 | ¥5,066,946  | 103.9% |
|       | 客数  | 61,024       | 57,572       | -3,452      | 94.3%  |
|       | 客単価 | ¥2,143       | ¥2,359       | ¥216        | 110.1% |
| 合計    | 収入額 | ¥855,471,971 | ¥937,339,808 | ¥81,867,837 | 109.6% |
|       | 客数  | 130,230      | 131,982      | 1,752       | 101.3% |
|       | 客単価 | ¥6,569       | ¥7,102       | ¥533        | 108.1% |
| 一日平均  | 収入額 | ¥2,343,759   | ¥2,582,203   | ¥238,444    | 110.2% |
|       | 客数  | 357          | 364          | 7           | 101.9% |

\* 年度内3日間休館(8/2、8/3、8/4)

## IV. 施設管理

2005年から2006年にかけて行われた本館の改修工事から18年が経過し、建物の内外装仕上げの補修と設備機器の更新が必要となる箇所が生じている。今期は、利用者の使用頻度の高い部分を優先し補修・更新工事を行った。具体的には、屋上まで続くA階段の仕上げ補修、客室テラスや南面庇上部の防水更新工事・客室廊下壁面の更新・エントランス庇の防水軒裏の塗装補修等である。設備機器の更新は、二重投資リスクを回避するという考えに基づき、数年先に着工を予定している新西館工事の際に大規模に行う予定である。また、機器の故障が発生し運営に支障が出る箇所に対して応急的な更新を行った。具体的には、共有スペースに設置しているGHP空調機の一部更新工事、図書室の空調機故障による更新工事、ティーラウンジ厨房の空調室内機故障による更新工事等である。さらに、利用ニーズに適合させるため、庭園照明の増設工事や、2階の一部客室については大口支援者の方々の使用を想定した専用ラウンジへ転用するための改修工事を行い、3階の一部客室は、宿泊利用者の要望に応えるためツインルーム化の改修工事を行った。

## V. 非営利事業等からの請負事業

### A. 非営利法人に対する事務等の業務請負

社会的に有意な活動を行っている比較的規模の小さい非営利団体をサポートすべく行っている業務請負事業である。

当期は、引き続き一般社団法人世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターに加え、一般社団法人価値創造フォーラム21の業務請負を行った。前者については、ステアリング会議及び、解散・清算に向けた理事会・社員総会の運営を実施した。後者については、価値創造フォーラムの各種プログラムの運営、会員や関係者の対応、渉外業務の支援・代行等を含む組織運営全般業務を請け負い、実施した。

### B. 企業等に対する講演会やセミナー等の企画、実施等の請負

企業等他法人及び個人に対して、主に公益事業3での調査研究からの知見を活用して、講演会やセミナー等を実施し、業務委託料を得る事業である。

当期は、地経学や経済安全保障等、会館が特に知見を有する分野に関して、グローバルに活動する日本企業への講演会及びセミナーを実施した。

## VI. 組織体制・ガバナンス

### A. 評議員会・理事会

当期は定時評議員会1回、臨時評議員会1回、理事会6回が開催された。

定時評議員会 2023年9月25日

臨時評議員会 2023年9月19日

第1回理事会 2023年9月6日

第2回理事会 2023年9月25日

第3回理事会 2023年10月17日

第4回理事会 2024年1月17日

第5回理事会 2024年3月14日

第6回理事会 2024年6月18日

### B. 評議員・理事・監事等

当期の評議員・理事・監事等の異動は、以下の通りである。

#### 【評議員】

(新任)

麻生 巖 石井 壯太郎 伊藤 公平 今村 久美 上野山 勝也 大藺 恵美  
大原 あかね 片岡 真実 亀澤 宏規 小林 いずみ 杉山 文野 滝 久雄  
谷家 衛 永野 毅 藤野 英人 クリス・ブリュンガー 松本 恭攝  
武藤 真祐 森 俊子 森田 隆之 諸藤 周平 柳井 由紀 山岸 広太郎  
ジェニファー・ロジャーズ

(重任)

久保 文明 高原 明生 田中 達郎 松本 大

#### 【監事】

(新任)

松前 江里子

(重任)

池田 祐久 小川 陽一郎

#### 【理事】

(新任)

田代 桂子

(重任)

小林 公成 小林 正美 小林 りん 近藤 正晃ジェームス 佐藤 輝英 神保 謙  
富川 秀二 細谷 雄一 宮田 裕章 渡辺 靖

#### 【代表理事】

(重任)

近藤 正晃ジェームス 神保 謙

**【名誉顧問】**

(重任)

明石 康

**【顧問】**

(重任)

番場 孝司 村井 純

**【Trustee Emeritus/Emerita】**

小川 忠 M. カセム A.B. ケーリ 河野 通和 添谷 芳秀 竹中 千春  
D.D. バスカビル 屋間 祐治 村上 陽一郎 吉本 光宏

**【Emerita Board Members】**

伊藤 実佐子 千野 境子

## **C. 委員会**

当期に開催された委員会は、以下の通りである。

**役員等候補者選出委員会**

2023年7月18日(意見交換会)

2023年9月6日

2024年2月21日

**独立性委員会**

2024年3月18日

**プログラム委員会**

2023年9月22日

2023年12月5日

2023年12月22日

2024年3月26日

2024年5月21日

**会員制度検討委員会**

2023年8月1日

2024年2月20日

2024年5月9日

**財務戦略委員会**

2024年5月13日

資産運用委員会

2023年10月31日

2023年12月1日

2023年12月13日

2024年1月12日

2024年2月14日

不動産開発・運営委員会

2023年8月24日(意見交換会)

2023年10月26日

2023年11月7日

2024年5月20日

ギャラリー事業検討委員会

2024年6月26日

建築家選定委員会

2023年11月17日

## Ⅶ. 寄付募集活動

### A. 寄付金・補助金等

2023年7月から2024年6月期に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

|  | (千円)    |
|--|---------|
| <b>寄付金</b>                             |         |
| ・70周年事業                                | 198,270 |
| ・Leaders in East Asia for Peace (LEAP) | 137,500 |
| ・一般寄付                                  | 53,536  |
| ・入会時寄付金                                | 37,000  |
| ・IHJジャーナリズム大賞                          | 30,036  |
| ・日米国際金融シンポジウム                          | 12,500  |
| ・アジア・リーダーズ・フェローシップ(ALF)                | 10,000  |
| ・海外Thought Leader 招聘プログラム              | 10,000  |
| ・新渡戸リーダーシップ・プログラム                      | 1,400   |
| ・政策起業家プラットフォーム(PEP)                    | 1,000   |
| ・Hasso会                                | 1,000   |
| <b>受取負担金</b>                           |         |
| ・地経学研究                                 | 350,913 |
| ・シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム(SVJP)           | 211,244 |
| ・政策起業家プラットフォーム(PEP)                    | 10,000  |
| <b>補助金等</b>                            |         |
| ・政策起業家プラットフォーム(PEP)                    | 69,437  |
| ・日米安全保障研究                              | 28,930  |
| ・港区版ふるさと納税制度団体応援補助金                    | 23,268  |
| ・歴史に学ぶ・戦後危機                            | 18,490  |
| ・美観向上整備事業補助金(東京都教育委員会)                 | 8,306   |
| ・日米芸術家交換プログラム                          | 7,657   |
| ・新渡戸リーダーシップ・プログラム                      | 4,492   |
| ・Architalk                             | 2,500   |
| ・アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム(APYLP)     | 1,000   |
| ・霞会館                                   | 300     |

## VIII. 総務関連事項

### A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて協議している。

2019年11月に新たな新基本計画案、2020年度にモデル権利変換計画が策定され、2021年度は基本設計業務が推進された。この間、会館の土地では地盤調査や擁壁の強度調査が行われた。その後、2022年度4～6月に全街区の基本設計が進められ、2022年の秋には都市計画素案が共有され都市計画手続きへの同意取得が進められた。2023年6月には、近隣の方々を対象にした説明会が開催され、会館内では樹木調査等が実施された。

当期は、2023年7月に東京都及び港区に対し都市計画提案がなされ、その後の行政手続きを経て、2024年3月に都市計画決定に至った。事務所棟街区と高層住宅棟街区においては、施設建築物や都市基盤整備に係る実施設計が開始されると共に、建物等現況調査、環境アセスメント、地上測量等の各種調査が実施された。